



Newsletter of Center for the History of Meiji University

ニュースレター 明治大学史 No.15



講演会「ボアソナードと三兄弟」（2018年7月6日 明治大学駿河台キャンパス。写真提供 関西大学年史編集部）

目次

（巻頭言） 就任にあたって	明治大学史資料センター所長 村上 一博	2
特集① センターの研究発信事業		3
Ⅰ シンポジウム・講演会 Ⅱ 企画展示会		
特集② センター調査報告		5
Ⅰ 子母澤寛関係 Ⅱ インタビュー		
大学史資料センター事業報告		6
大学史資料センター刊行物案内		8
山崎今朝弥 弁護士にして雑誌道楽／明治大学の歴史／私学の誕生 明治大学の三人の創立者／木村礎研究 戦後歴史学への挑戦／布施辰治研究／三木武夫研究／明治大学小史 人物編／大学史紀要第25号 小特集 安藤正楽		

（巻頭言） 就任にあたって

明治大学史資料センター所長
村上 一博

2018年4月から大学史資料センター所長に就任した法学部の村上です。日本近代法史、とくにフランス法の継受、判例および法曹の研究を専門としています。私がセンターと関わるようになったのは、2003年4月、それまでの歴史編纂事務室が改組されるかたちで、大学史資料センターが開設され、その運営委員に加えていただいたときからです。かれこれ15年以上にわたって大学史に携わってきたこととなります。初代所長の渡辺隆喜文学部教授（明治維新史）、第2代の別府昭郎文学部教授（ドイツ大学史）、第3代の山泉進法学部教授（日本社会思想史）と、嶺々たる大家の跡を承けて所長を務めるのは、私にとって大きなプレッシャーですが、微力ながら全力で職務に取り組む所存です。

大学史資料センターが開設された際、渡辺所長は、「駿台学の樹立」すなわち、駿河台に立地する明治大学に固有な学問的傾向または知的伝統が、明治大学の歴史の中で、果たして培われてきたか否か、いたとすれば、どのような特色をもって継承されてきたかを、建学の理念とかかわって明確にすることが、センターの使命であると高らかに宣言されました（大学史紀要第8号「駿台学の樹立」。最初に「駿台学」の検討対象に選ばれたのは、大審院判事で近代史家でもあった尾佐竹猛で、その研究の成果は、大学史資料センターとしての最初の研究書『尾佐竹猛研究』（2007年10月）として結実しました。出版社の選定にあたり、木村礎先生門下の栗原哲也氏が社長を務められていた日本経済評論社から出版してはという話になり、私が交渉に当たることになりました。著者と酒を酌み交わさないで出版など引き受けられないという栗原社長に最初は少し戸惑いましたが、酒席を何度か一緒するうちに、出版社の使命について熱く語る社長の魅力に次第に惹かれるようになったことを思い出します。尾佐竹に続いて、「駿台学」の対象は、在野の反戦思想家である安藤正楽から、戦前日本を代表する人権派弁護士の布施辰治・平出修・山崎今朝弥らへと移り、次いで元総理大臣の三木武夫、近世史家の木村礎、作詞家の阿久悠、小説家の子母澤寛さらに歴代の理事長および学長、韓国・台湾などからの留学生の研究へと大きく展開してきました。これまでの研究の成果は、時々の大学史紀要で特集が組まれたのち、『布施辰治研究』（2010年12月）、『三木武夫研究』（2011年10月）、『木村礎研究』（2014年8月）、『山崎今朝弥一弁護士にして雑誌道楽』（論創社、2018年8月）、『アジア留学生と明治大学』（東方書店、2019年3月）の五冊として纏められています。尾佐竹と布施については、研究書にとどまらず、『尾佐竹猛著作集』（全24

巻、2005～2006年）、『布施辰治著作集』（全17巻、2007～2008年）という著作集の刊行まで実現することができました。出版活動とともに、講演会や講義で、研究成果を、ひろく校友や学生の皆さんに還元する活動も行われてきたことは言うまでもありません。私自身にとっては、こうした「駿台学」研究の歩みの中で、安藤正楽と三木武夫研究を除き、すべての調査研究と出版活動に参加でき、「駿台学」の心髄に触れる貴重な経験をえられたことに無上の喜びを感じています。

ちなみに、こうしたセンターでの活動と並行して、私が個人的に行った大学史関係の研究としては、『日本近代法学の巨擘 磯部四郎論文選集』（信山社、2005年11月）、『磯部四郎研究』（平井一雄氏と共編、信山社、2007年3月）、『日本近代法学の揺籃と明治法律学校』（日本経済評論社、2007年3月）、『日本近代法学の先達一岸本辰雄論文選集』（日本経済評論社、2008年10月）、『東洋のオルトラン一宮城浩蔵論文選集』（明治大学出版会、2015年7月）などがあります。

以上のような研究の傍らで、広く学生や一般の皆さんに、明治大学の歴史と人物を知ってもらうために、センターでは、『明治大学小史一〈個〉を強くする大学の130年』（学文社、2011年4月）、『明治大学小史（人物編）』（学文社、2011年11月）、『私学の誕生—明治大学の三人の創立者』（創英社、2015年3月）、『明治大学の歴史』（DTP出版、2017年10月）も刊行してきました。

センター発足から今日までの16年間で、よくもこれ程の研究成果を生み出してきたものだ当事者の一人ながら感心しますが、年史を除いて、多くの研究書の出版については、大学からの資金援助を受けておらず、所長以下執筆者は基本的に無報酬で、場合によっては講義や講演の手当などを出版費用にあてることで、（もっと端的に言えば、大学史への熱意と情熱から、経費を自己負担することで）出版活動が継続されてきたという事実を、特に記しておきたいと思います。

ともあれ、センターでは、現在、創立者研究会、人権派弁護士研究会（第二期）、アジア留学生研究会、財界人研究会、昭和歌謡史研究会、文学者研究会、三木資料研究会という七つの研究会が組織され、それぞれが研究活動を続けており、今後も多彩な研究成果が生みだされることが期待されますが、それとともに、当面は、明治大学140周年の記念事業として、明治大学140年史、明大スポーツ特集、鶴沢総明の評伝などの刊行に、全力を注ぎたいと考えています。

特集① センターの研究発信事業

大学史資料センターでは、これまで蓄積した知見と資料を研究資源として、学内各セクションや学外機関と連携しながら大学のステークホルダーや社会各層に向けて講演会やシンポジウムなど、センターの研究を発信する事業を行っています。今回は2018年度に実施した活動の一端をご紹介します。

I シンポジウム・講演会

○反戦・平等論者 校友安藤正楽と明治法律学校 〈リバティタワー1075教室 2018年4月29日（日）〉



安藤正楽

安藤正楽（あんどう・せいがく1866-1953）は、明治法律学校で国際法を学び、のち愛媛県宇摩郡（現四国中央市）を拠点として、当時一級の知識人や芸術家と交流を深めながら反戦・平等を訴えた文人思想家・歴史家として知られています。1907年（明治40）建立の「日露戦争戦役記念碑」撰文に、正楽は戦争の過ちを批判して「忠君愛国の四字を減するにあり」と寄せました。その碑文は問題視されて全体が削り取られ、現在も「顔のない碑」として残されています。

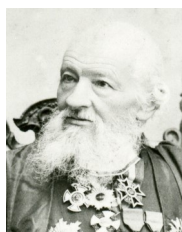
本講演会は、同名展示会（後掲記事にて紹介）と同時開催のもので、正楽の思想の淵源を辿るとともに、正楽が学んだ明治法律学校とその時代を紹介し、正楽の訴えた反戦・平等思想の現代的意義について考える

ものです。講演会では近藤弘樹氏（四国中央市教育委員会）による正楽の紹介に続き、山泉進研究調査員（前センター所長）「安藤正楽の反戦思想」、村上一博センター所長「安藤正楽が学んだ明治法律学校とその周辺」による講演を行いました。その後、山泉研究調査員、村上所長に玉井崇夫元文学部教授も加わり、「安藤正楽再考」と題したシンポジウムを行い、正楽の遺したものとその現代的意義について検証しました。



左から村上所長・山泉前所長・玉井元教授

○ボアソナードと3兄弟 〈リバティタワー23階岸本辰雄ホール 2018年7月6日（金）〉



本誌表紙写真に掲げた本講演会は、2017年9月、明治大学・法政大学・関西大学の3大学が連携協力協定を締結したことを記念して開催した展示会「ボアソナードとその教え子たち」（後掲）と併催で行ったものです。

村上一博所長が、「日本近代法の父」と讃えられるギュスターヴ・エミール・ボアソナード（1825-1910）と、その教え子たちが作った3大学関係者をはじめとする門下生たちの活動を法史的観点から説き明かしました。村上所長は明治大学の岸本辰雄、法政大学の薩埵正邦、関西大学の小倉久など草創



期の教え子たちの構成を詳細に紹介しました。そして彼らのボアソナードとの関係、人道主義的姿勢で説いた法律や考えを紹介し、三大学の設立趣意にうたわれる“人民の権利義務”や“権利自由”などに触れ、「国家権力に対して民衆の権利自由を擁護しようという姿勢がみえ、これを実現しなければ日本の近代化は成しえないという三大学の意思が表れている」と述べました。本講演会には、明治大学の土屋恵一郎学長、法政大学の田中優子総長、関西大学の芝井敬司学長も列席し、それぞれ村上所長の講演へのコメントをいただきました。

○第3回 厚田ふるさと・平和文学賞 第3回シンポジウム 〈北海道石狩市厚田保健センター 2018年10月20日（土）〉

センターでは、厚田ふるさと平和・文学賞実行委員会（北海道石狩市厚田地区 会長 佐藤勝彦石狩市厚田区地域協議会会長、札幌大学名誉教授）が主催する「子母澤寛文学賞・同愛猿記賞」を後援しています。歴史小説家・子母澤寛（1892-1968）は、『新選組始末記』『勝海舟』などで知られる明治大学卒業生です。今回、第3回となるシンポジウムにおいて、文学者研究会（研究代表 吉田悦志国際日本学部教授〔センター運営委員〕）のメンバーである吉田委員及び富澤成寛委員が講演を行いました（司会・森厚氏〔農民文学賞作家〕）。

「子母澤寛文学と厚田一牧田重勝のことう」と題した吉田委員の講演では、子母澤寛に剣道を教えた厚田直心館道場主・牧田重勝の足取りと子母澤作品「或る人の物語」（主人公は牧田がモデルと言われている）の記述を比較しながら、小説におけるフィクションのあり方について考察を行いました。続く富澤委員の講演では、「志賀直哉『網走まで』を読む―網走という場所―」と題して、志賀直哉の同作品の考察を通して、志賀の女性観等を明らかにする新しい作品の読み方を提示しました。



（上）吉田委員（下）富澤委員

○山崎今朝弥 弁護士にして雑誌道楽〈和泉キャンパス第1校舎415教室 2018年11月16日（金）〉

2017年開催した「雑誌道楽 山崎今朝弥」に続く企画です。山崎今朝弥（1877-1954）は、現在の長野県岡谷市に生まれ、明治大学前身の明治法律学校を卒業後、同窓の布施辰治たちとともに、人権派弁護士として社会的弱者、社会主義者、アナキストなどの弁護を務め、自由法曹団の創設にかかわったことでも知られます。傍ら『地震憲兵火事巡査』などの著書を残し、また数多くの雑誌発行に携わりました。山崎をめぐるのはセンター内設置の研究部会・人権派弁護士研究会（研究代表村上一博所長・山泉進研究調査員〔前センター所長〕）が研究を続け、その成果を『山崎今朝弥—弁護士にして雑誌道楽』（山泉・村上編 論創社）に上梓しました。

本シンポジウムは同書の刊行を記念して、明治大学法学部との共催にて開催したものです。村上一博所長、山泉進研究調査員（前センター所長）、飯澤文夫研究調査員、中村正也研究調査員が登壇し、山崎の事績と、生涯にわたって熱心にあたった雑誌編集術が紹介されました。

また2019年3月7日には、山崎の生地である岡谷市でシンポジウム「人権派弁護士 山崎今朝弥の生涯」と題したシンポジウムを開催しました（諏訪信用金庫との共催）。岡谷でのシンポジウムの詳細は本誌次号にて紹介いたします。



村上所長（上）山泉前所長（下）

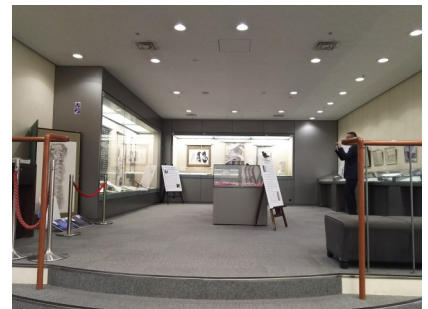
II 企画展示会

大学史資料センターでは、これまでの研究成果を活用して関係機関と連携して各種展示会を実施しています。以下に2018年度に実施した企画展示をご紹介します。

○反戦・平等論者 校友安藤正楽と明治法律学校〈明治大学中央図書館1階ギャラリー 2018年4月29日（日）～5月15日（火）〉

前頁にて紹介したシンポジウムと同名の本展示会を四国中央市教育委員会、四国中央市暁雨館及び明治大学図書館との共同事業にて実施しました。今回、正楽の遺族が寄贈し、現在暁雨館にて所蔵する貴重な遺品類を多数展示することができました。東京での正楽の展示は今回がはじめてとなります。

正楽の思想とその活動をわかりやすく紹介すべく、「Ⅰ 安藤正楽と明治法律学校」「Ⅱ 安藤正楽の学問」「Ⅲ 削られた日露戦争記念碑—反戦・平等への志向」「Ⅳ 安藤正楽の芸術」と4部構成の展示となっています。とくに本展示において目立った存在は、その内容のために碑文が削られた、いわゆる「顔のない碑」として知られる「日露戦役記念碑」の写真と、碑文が削られた後も、村内に秘蔵されていた碑文の撰文です。また正楽が描いた絵画や書など、荒々しい魅力に溢れた芸術作品も一部展示することができました。今後正楽をはじめとする、地方で活躍した卒業生の展示なども展開していきたいと考えています。



○法政大学・明治大学・関西大学3大学連携協力協定締結記念特別展示

「ボアソナードとその教え子たち」〈明治大学博物館特別展示室 2018年7月7日（土）～8月4日（日）〉

本展示は、2017年9月25日に本学、法政大学および関西大学との間で締結された連携協力協定の一環として企画されました。3大学の創立者たちが共通して薫陶を受けたボアソナードの事績と、その教え子たち、そして3大学の創立について振り返り、世界的な観点からその意義を改めて考える機会にすることを目的としたものです。本学での展示会を皮切りに、法政大学（会期 2019年2月23日～4月22日）、関西大学（会期 2019年6月1日～7月20日）でもそれぞれ展示会とシンポジウムとを開催する運びとなっています。

展示の柱は大きくわけて、第1に、ボアソナードの事績紹介（生い立ち、研究業績、法典編纂、法曹育成、ボアソナード没後の評価など）、第2に、3大学創立に関わったボアソナードの教え子たちと各大学の歴史紹介、第3に、講義録など3大学の教育資料や、映像資料を活用した歴史紹介です。3大学からボアソナードとその教え子に関する貴重資料をそれぞれ持ち寄ることで、これまでにない展示会を行うことができました。来場者に対して取ったアンケートでは、3大学それぞれの違いを知ることができた、といった共催展ならではの感想を得ることもできました。本展示を通して3大学の連携を深めたことに加え、今後の同種事業の実施にもつながる大きな成果だったといえます。



特集② センター調査報告

大学史資料センターは明治大学のアーカイブズとして、大学が歩んできた歴史に関する様々な調査・資料収集活動を行い、蓄積した資料を整理して基礎資源として各種問い合わせへの対応、成果物等の刊行、展示会等を開催しています。本号では2018年度に実施した調査の一端をご紹介します。

I 子母澤寛関係 〈①2018年10月19日（金）～21日（日）北海道石狩市・札幌市、②11月30日（金）牧田重勝子孫宅、③12月23日（日）子母澤寛孫宅〉

文学者研究会（代表代表 吉田悦志委員）を中心として毎年関係故地において子母澤寛に関する調査を推進しています。2018年度は3回にわたり調査を行いました。①の調査では、子母澤寛の異母弟である三岸好太郎について調査を行いました。

今回は三岸が影響を受けたと考えられている有島武郎について、有島代表作の一つである「生れいづる悩み」のモデルとなった画家・木田金次郎の作品を展示した「有島武郎と木田金次郎」展（JRタワープラニスホール）の見学調査と、北海道立三岸好太郎美術館への訪問調査を行いました。有島は北海道大学前身の東北帝国大学農科大学で教壇に立ち、絵画サークル「黒百合会」を設立しています。三岸は同会との縁が深く、同会主催の展覧会に絵画を賛助出品する関係でした。三岸好太郎美術館には、三岸の代表作はもちろんのこと、三岸が子母澤寛を描いた絵画なども所蔵されています。土岐美由紀氏（同館副館長）に三岸の絵画の所蔵状況についてお話を伺いました。

②の調査では、子母澤が少年時代に剣道を学んだ厚田直心館主・牧田重勝をめぐる継続調査を行いました。同日は、牧田の曾孫にあたる方と、孫にあたる方のお宅を訪問しました。訪問させていただくのは、これで2度目となります。資料を拝見させていただくとともに、種々新たなお話を伺うことができました。

③の調査においては、子母澤寛の孫にあたる御遺族の方々とお目にかかり、子母澤にまつわる大変貴重なお話を伺うとともに、これまで未見の貴重資料を多数拝見することができました。資料の多くは子母澤の出身地である、石狩市中央図書館に寄贈され、展示や研究などに活用されることとなっています。

センターでは子母澤をはじめとする明治大学出身文学者の調査を今後も継続する予定です。

（吉田悦志・富澤成實・村松玄太）

II インタビュー 〈①南館信也氏 2018年11月2日（金）実施、②栗原哲也氏 2018年11月2日（金）実施〉

センターでは近年、聞き取り調査を積極的に実施しています。2018年度は2件の聞き取りを実施しました。①の南館信也氏へは昭和歌謡史研究会（研究代表 吉田悦志委員）が聞き取りを行いました。在学中は明治大学応援指導部（当時）の団長として活躍されました。また、在学中に古賀政男が作曲したことで知られる応援歌「紫紺の歌」の作歌にも携わられました。聞き取りでは、明治大学に進学した動機や学生生活の模様、応援指導部の団長としての活動、古賀政男との交流などについて克明なお話をいただきました。また南館氏は繰り上げ卒業を経験しています。そのことも含め貴重なお話をいただくことができました。

なお本聞き取りはJSPS科研費・課題番号16K02337の成果の一部です。

②の栗原哲也氏へは、財界人研究会（研究代表 白戸伸一委員）が聞き取りを行いました。栗原氏は明治大学を卒業後、現在まで出版人として活躍されています。2016年まで日本経済評論社の社長を務め、現同社取締役会長です。これまで同社から研究書を中心とする多数の書籍を送り出したほか、同社PR誌「評論」でコラム「神保町の窓から」を長く執筆されました。本と出版をめぐる真摯でパーソナルに溢れたコラムには数多くのファンがいます。栗原氏には、学生時代のこと、日本経済評論社に入社する経緯と初期の仕事、出版業界や日本経済評論社の時期ごとの立ち位置、印象深い出版物、人物との出会い、仕事に対する考え、日本経済評論社社長就任前後のこと、明治大学や出版業界へ進む後輩へのメッセージなど、多方面にわたるお話を伺えました。

なお両氏へのインタビューは『大学史紀要』第25号に収録されています。ぜひ一読ください。

（南館信也氏は、インタビュー後の2019年2月、逝去されました。生前のご厚誼に感謝するとともに、衷心よりご冥福をお祈りいたします）



（上）南館信也氏（前列右から2人目）
（下）栗原哲也氏（前列左）

大学史資料センター事業報告(2018年度)

1 資料の調査・収集・公開

各部署で所蔵する、保存年限は終了したものの歴史的価値を有する学内文書の調査・移管を随時実施しました。従前から取り組んでいる関係部署との連携をより深め、劣化の著しい文書類については速やかに移管を進めて整理・保存のための措置を講じ、大学アーカイヴズとしての機能強化を図っています。創立者・著名校友（人権派弁護士・昭和歌謡関係者・財界人関係者）・アジア留学生等に関する資料の調査・収集についても継続して推進しています。蓄積した資料や情報は校史を明らかにする材料としてばかりではなく、研究資源としても学内外に幅広く公開します。2018年度は約150件の照会に対応しました。

2 編集・刊行

調査・収集の成果を学内外に広く公開するため、以下の刊行物を編集・刊行しました。

- ① 論文集『大学史紀要 第25号 小特集 安藤正楽』（2019年3月発行）
- ② 広報誌『ニュースレター 明治大学史』第15号（本誌）

3 教育

駿河台・和泉・生田・中野キャンパスにおいて「学部間共通総合講座 明治大学の歴史」を開講しています。明治大学で学ぶ学生に、自分の学んでいる大学がどのような理念で設置され現在に至っているのか、そして大学の特色がどこにあるのかを最新の知見により知らせ、学生が大学をより身近に感じ、大学生活を豊かにすることを目的としています。

4 展示

大学の理念や歩みを幅広い層にわかりやすく伝えていくため、センターで収集・所蔵している資料の展示を実施しました。

- ① 大学史展示室（常設展示 駿河台キャンパスアカデミーコモン地下1階）
- ② 阿久悠記念館（常設展示 同）
- ③ 大学小史展示（企画展示 駿河台キャンパス大学会館1階）
- ④ 3大学共催ボアソナード企画展示（特集参照）

5 社会教育

内外の幅広い層に向け公開講座等を実施し、「開かれた大学」として社会的使命を果たしました。

6 大学史資料センター運営委員会・研究会等

センターで開催した各種会議・研究会等は以下の通りです。

① センター運営委員会

- | | | | |
|-------|----------------|----|-----------------------|
| 第 97回 | 2018年 4月18日（水） | 議題 | 2018年度編集委員会について 他 |
| 第 98回 | 2018年 5月16日（水） | 議題 | 「白雲なびく遙かなる明大山脈」について 他 |
| 第 99回 | 2018年 6月20日（水） | 議題 | 2019年度総合講座について 他 |
| 第100回 | 2018年 7月18日（水） | 議題 | 3大学連携ボアソナード展示について 他 |
| 第101回 | 2018年 9月26日（水） | 議題 | 講演会等の謝金支給について 他 |
| 第102回 | 2018年11月21日（水） | 議題 | 2019年度総合講座シラバスについて 他 |
| 第103回 | 2018年12月19日（水） | 議題 | センター所長及び副所長について 他 |
| 第104回 | 2019年 1月16日（水） | 議題 | センター所長及び副所長の職務給について 他 |
| 第105回 | 2019年 3月 7日（木） | 議題 | センター規程の改正について 他 |

② 創立者研究会

（構成員 村上一博所長【代表】 野尻泰弘委員 阿部裕樹【事務局】）

○資料調査（福井県福井市・同鯖江市） 2019年3月13日（水）～15日（金）

③ 人権派弁護士研究会（第Ⅱ期）

（構成員 村上一博所長【代表】 山泉進研究調査員 長沼秀明研究調査員 飯澤文夫研究調査員

中村正也研究調査員 阿部裕樹【事務局】）

第52回 2018年 6月20日(水) 内容 『山崎今朝弥』出版打合せ 他

第53回 2018年 11月 7日(水) 内容 山崎今朝弥シンポジウムの役割分担について 他

○シンポジウム「『山崎今朝弥—弁護士にして雑誌道楽』刊行記念シンポジウム」(明治大学和泉キャンパス)

2018年11月16日(金)

第54回 2018年12月20日(水) 内容 山崎今朝弥講演会について 他

○シンポジウム「人権派弁護士山崎今朝弥の生涯」(諏訪信用金庫との共催 テクノプラザおかや) 2019年3月8日(金)

④ アジア留学生研究会

(構成員 高田幸男副所長【代表】 村上一博所長 三田剛史委員 李英美委員 山下達也委員

土屋光芳研究調査員 鳥居高研究調査員 鈴木将久研究調査員 長沼秀明研究調査員 阿部裕樹【事務局】)

第59回 2018年 6月 5日(水) 内容 人文科学研究所総合研究原稿について 他

第60回 2018年 7月 4日(水) 内容 見城悌治『留学生は近代日本で何を学んだのか』書評(三田委員) 他

第61回 2018年 10月 3日(水) 内容 人文科学総合研究成果出版社について 他

第62回 2018年11月14日(水) 内容 韓国YMCA2・8独立宣言記念資料室見学 他

第63回 2019年1月 9日(水) 内容 「第二一回現代台湾研究学術討論会における謝政徳氏報告「弁護士葉清耀と近代台湾の地域社会」」について(村上所長) 他

⑤ 財界人研究会

(構成員 白戸伸一委員【代表】 村上一博所長 阿部裕樹【事務局】)

○栗原哲也氏インタビュー2018年11月2日(金)

⑥ 昭和歌謡史研究会

(構成員 吉田悦志委員【代表】 富澤成實委員 村松玄太【事務局】)

○資料調査 岩手県盛岡市・宮古市、宮城県仙台市・多賀城市 2018年11月1日(木)～4日(日)

⑦ 文学者研究会

(構成員 吉田悦志委員【代表】 富澤成實委員 村松玄太【事務局】)

○資料調査及び「厚田ふるさと・平和文学賞第3回シンポジウム」講演 北海道石狩市・同札幌市 2018年10月19日(金)～28日(日)

○資料調査(牧田重勝曾孫及び孫宅) 2018年11月30日(金)

○資料調査(子母澤寛孫宅) 2018年12月23日(日)

⑧ 三木資料研究会

(構成員 小西徳應委員【代表】 村上一博所長 山泉進研究調査員 竹内桂研究調査員 村松玄太【事務局】 ※信夫隆司 日本大学法学部教授参加)

第 1回 2018年 4月18日(水) 内容 三木資料オンライン版資料集について 他

第 2回 2018年 7月18日(水) 内容 「三木資料にみる小笠原核持ち込み問題」(信夫教授) 他

第 3回 2018年 9月 6日(水) 内容 科研費調査書の検討 他

第 4回 2018年10月 3日(水) 内容 科研費調査書の検討 他

明治大学史資料センタースタッフ一覧(2019年3月1日現在)

所 長 村上 一博(法学部長)
副 所 長 高田 幸男(文学部教授)
運営委員 若林 幸男(副学長・商学部教授)
李 英美(商学部教授) 三田 剛史(商学部准教授)
富澤 成實(政治経済学部教授) 山田 朗(文学部教授)
野尻 泰弘(文学部准教授) 山下 達也(文学部准教授)
松下 浩幸(農学部教授)
吉田 悦志(国際日本学部教授・図書館長・阿久悠記念館運営責任者)
白戸 伸一(国際日本学部教授) 岩崎 宏政(社会連携事務長)
(以上、センター規程第8条第1項第3号に基づく委員)
高山 茂樹(総務部長) 松尾 智己(総務課長)
(以上、センター規程第8条第1項第4・5号に基づく委員)
事務局 (総務部総務課〈大学史資料センター担当〉)
村松 玄太 武井 大貴 阿部 裕樹
江原 千秋(派遣) 吉田晋一郎(嘱託) 久住有加(嘱託)



山崎今朝弥 弁護士にして雑誌道楽 〈論創社刊〉

明治大学史資料センター監修 山泉進・村上一博編 四六判並製 346頁 定価2800円+税(2018・10)

「奇人」が抱き続けた反骨と自由——彼の文章は、権力から柔らかに弱者を護る鎧となった。

明治10年野県諏訪郡川岸村（現岡谷市）に生まれ、米国留学後、布施辰治とともに人権派弁護士として活躍した山崎今朝弥（やまざき・けさや 1877-1954）。宮武外骨と並んで数多くの雑誌を創刊したことで有名である。「奇人」といわれた彼が遺した数々の「奇文」に漂う諧謔と飄逸、人権や平等を読み解き、一貫して民衆の弁護士として生きた山崎の業績と人柄に迫る（論創社ウェブサイトより）。

明治大学の歴史 〈DTP出版刊〉

明治大学史資料センター編 四六判並製 363頁 定価2530円+税(2017・11)

明治大学の現在と過去の歴史について、多様な側面から光を当てた入門書。これまでの書籍にはなかったトピック別の構成。第Ⅰ部「大学・学部の歴史」第Ⅱ部「キャンパスと学生生活」第Ⅲ部「校友と社会活動」第Ⅳ部「21世紀の明治大学」で構成。

私学の誕生 明治大学の三人の創立者 〈創英社／三省堂書店刊〉

明治大学史資料センター編 四六判並製 240頁 定価1700円+税(2015・3)

明治大学の創立者・岸本辰雄、宮城浩蔵、矢代操の生涯をわかりやすく紹介する初めての公式本。

木村礎研究 戦後歴史学への挑戦 〈日本経済評論社刊〉

明治大学史資料センター編 A5判上製 256頁 定価3500円+税(2014・8)

木村礎は戦後日本の歴史学研究をリードし、近世村落史研究の画期を築いた。その一端を明らかにする木村礎研究会の成果。付・年譜、文献目録。

三木武夫研究 〈日本経済評論社刊〉

明治大学史資料センター監修 小西徳應編著 A5判上製 400頁 定価5200円+税(2011・10)

国民を恐れ、政党政治の未来を信じた「議会の子」三木武夫元首相。その実像に迫る。

布施辰治研究 〈日本経済評論社刊〉

明治大学史資料センター監修 山泉進・村上一博編著 A5判上製 328頁

定価4000円+税(2010・12)

日本のシンデラーとも呼ばれた「人権派弁護士」布施の多面的な活動を史料とともに検証する。

明治大学小史 人物編 〈学文社刊〉

明治大学史資料センター編 四六判並製 248頁 定価2300円+税(2011・10)

明治大学が輩出した人物を大学行政・アカデミズム・法曹・政治・財界・作家・芸能文化・スポーツ・アジア人留学生の諸分野から119名を精選して紹介。

定期刊行物 ※入手方法についてはセンターまでお問い合わせ下さい。

小特集 安藤正楽 大学史紀要第25号 A5判並製 (2019・3)

小特集は愛媛を拠点に活躍した思想家・芸術家「安藤正楽」。深田太郎（阿久悠令息）、上村汀（上村一夫令嬢）両氏対談。南館信也氏、栗原哲也氏聞き取りなど。

ニュースレター明治大学史 No.15

<http://www.meiji.ac.jp/history/>

発行日 2019年3月30日

編集・発行 明治大学史資料センター 所長 村上 一博

所在地 101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1 電話 03-3296-4448 FAX 03-3296-4365